

■ 新しい大学経営モデルへの転換を見据えた先行的取組 ■

エンダウメント型基金「関西大学みらい基金」を創設

～ 学費・補助金型の経営から、エンダウメント型の大学経営へ ～

関西大学は創立140周年を迎える本年を節目とし、学園の将来に向けた安定性と持続可能性を高めることを目的として、第3号基本金となるエンダウメント型基金「関西大学みらい基金」を新設します。本基金の創設は、関西の私立大学において先駆的な取組であり、寄付金とその運用益が恒久的に教育研究活動を支える仕組みを構築するものです。

本件のポイント

- ・ 関西の私立大学において先駆的となるエンダウメント型基金「関西大学みらい基金」を創設
- ・ 運用益を活用し、教育研究活動へ還元する基金運用
- ・ 2026年6月より寄付募集を開始し、将来的に1,000億円規模の基金形成を目指す

近年、18歳人口の減少や定員管理の厳格化などにより、日本の大学を取り巻く環境は大きな転換期を迎えています。こうした将来環境の変化を見据え、本学では、従来の学費や補助金に依存した財務構造からの転換を図るべく、中長期的な視点に立った大学経営のあり方について検討を進めるとともに、海外の有力大学で用いられているエンダウメント型大学基金の導入を、将来に向けた重要な戦略の一つとして位置付けてきました。

こうした構想のもと、本学の将来ビジョンに深いご理解とご共感をお寄せ下さった皆様からのご厚意を起点として、このたびエンダウメント型基金「関西大学みらい基金」を創設する運びとなりました。

今後は、本基金の趣旨へのご理解とご賛同を広く呼び掛け、学生・教職員・卒業生・保護者はもとより、志ある企業・個人や地域社会など、多様なステークホルダーに支えられる学園の実現を目指します（2026年6月より寄付募集開始）。

本基金では、運用益を再投資することで基金の持続的な拡充を図りつつ、経営基盤の強化を進めます。創立150周年を迎える2036年には基金規模150億円以上の達成を目標とし、安定的かつ自立的な財政基盤の確立を目指します。さらにその先を見据え、将来的には1,000億円規模への発展を展望し、より強固で持続可能な大学経営基盤の構築を進めてまいります。

	学費依存型	補助金型	エンダウメント型
財源の性質	学納金主体	国・自治体依存	基金運用益主体
18歳人口減少への耐性	極めて低い	低い (政治変動リスク)	高い (外部環境に左右されない)
成長性	限界あり	外部要因に依存	複利による持続的拡大
時間軸	短期～中期	単年度	半永久的 (50年、100年先)

<関西大学みらい基金の概要>

基金の目的：学園の永続的な発展のための持続可能な財源とすべく運用益を再投資して早期の規模拡大を図り、将来には運用益を教育研究や施設整備、財政基盤の強化に活用する。

組入目標額：当面は150億円以上（～2036年度）をマイルストーンとし、将来的に1,000億円を目指す。

この件に関するお問い合わせ先

関西大学 総合企画室 広報課 担当：小林、伊地知

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35 Tel.06-6368-0007 Fax.06-6368-1266 www.kansai-u.ac.jp